

～～大村で花と歴史とイタリアンを楽しみました～～

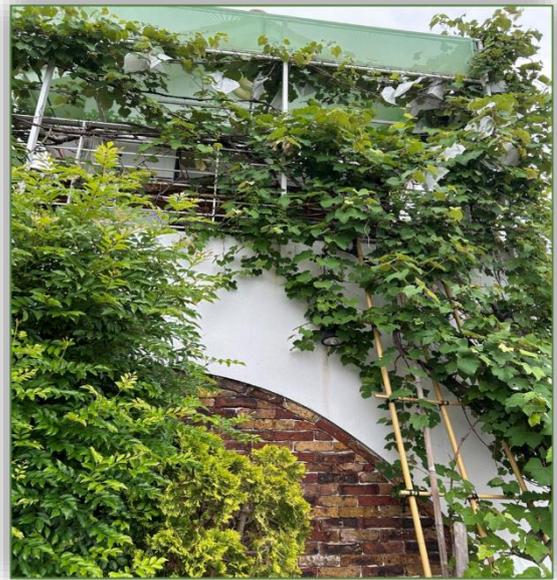
2024年6月8日(土曜日)に大村市で長崎支部会を行いました

☆ご当地紹介上映会

2022年11月の神奈川・長崎支部間リモート交流会のために長崎支部会員5人が作った長崎のご当地紹介を、プラザおおむらで上映しました。地元にくわしいはずの支部会員も知らなかった長崎のあれこれにふれて楽しみました。神奈川と長崎に共通点が多いということであらためて興味深く思いました。

☆イタリアンでランチ

歩いて向かったのは某イタリアンレストラン『P』。参加者の最初のうれしい驚きはレストランの内外に実るライトグリーンのだぶどう棚でした。海に面して建っているため、心地よさは倍増です。ワイン好きの参加者の1人は、勝手にこのぶどうはワインに適した品種であると見えています。軽めのイタリアンのコースでしたが、美味しいデザートまでお話がいくらでもはずみました。参加者それぞれから大学を卒業する際の就職事情についてお話いただきました。遠い土地から初めての街・長崎に移っても教師として頑張られた大先輩の話、今となっては笑える失敗談、就職氷河期にあった方の少し苦みの残る思い出など盛り上がりしました。



☆大村公園散策

今度は目を楽しませようと大村公園に移動しました。大村公園は大変珍しい品種のオオムラザクラなどの桜、藤、あじさいなどで四季折々美しい場所ですが、今回のねらいは30万本の花菖蒲です。伊勢系、肥後系、江戸系など171種類が日にちをずらして咲き誇っています。三方が海に囲まれた大村藩主の城の跡でもあるので、本丸跡、櫓(やぐら)、お堀などなんとも風情があります。これらを背景とした花々の美しいこと。この日は時々霧雨が降り、花菖蒲とあじさいの色がさえざえとしていました。こんなに気持ちのよい散策は久しぶりでした。





ここで景色に眺めいる長崎支部会員をパチリ！うしろ姿で失礼します。

☆旧楠本正隆屋敷

清々しい花々をあとに移動しました。楠本正隆は藩主大村純熙(すみひろ)の側近で倒幕に尽力し、維新後は東京府知事や衆議院議長も務めました。彼の屋敷は今も残る県内唯一の武家屋敷です。明治維新前、各藩が幕府側倒幕側のどちらについたのか、全国にドラマティックな逸話がたくさんあるはずです。大村藩でも相当の論議が戦わされたと聞いていますが、最終的に倒幕側につくことにしたのは、トーマス・グラバーの手助けでロンドンやスコットランドに国禁を犯して留学をした大村藩の若手藩士たちがいたことに大いに関係があるといわれています。産業の発達を学ぶと共に開明的になった若い藩士がもどってきて、拮抗していた二つの派閥の均衡を破って倒幕へと傾けました。楠本正隆の高い地位は、本人の資質があったことは明らかですが、同時に大村藩の明治維新における立場を確認できるものでした。



☆旧円融寺庭園

天台宗円融寺は徳川家の位牌を祀っていたため維新後廃寺になり、その後戊辰(ぼしん)の役での戦没者が祀られることになりました。大村藩の幕府との関係や歴史がわかる興味深いところです。庭園は400余個の自然石を立て、地形の起伏に従って作られた枯滝、枯流を表しています。



ここから大村駅に向かい、各自帰宅の途につきました。JR組は車内で会話をさらにはずせました。